管内育成牧場の死亡率低減に向けたトータルマネジメント：岡山県津山家保　森岡亮裕、西淳子

雌子牛の預託育成、肥育素牛の購入・生産を行う管内育成牧場の抱える課題解決に向け、複数の関係機関を交えてトータルマネジメントを実施。牧場の意向で優先テーマを肥育部門の事故率低減に設定。季節の変わり目や冬季の気温低下時、離乳後の牛舎移動時に子牛の死亡率が上昇していたため、子牛の保温シェルターや慣らし牛舎の新設等により寒冷及び群飼ストレス対策を実施。R4年度には3～5ヶ月齢の離乳後の子牛死亡頭数は半減（R3→R4：13頭→8頭）したが、導入後30日以内の哺乳子牛の死亡頭数が増加（R3→R4：3頭→15頭）。人員不足や担当者変更により異常発見が遅れ、呼吸器病での死亡が増加。病原検索や哺育牛舎の消毒を行うとともに、情報共有の円滑化対策を実施して早期対応を徹底。結果、牧場全体の死亡頭数が激減（R4→R5（4～12月）：42頭→11頭）。しかし他にも牧場の抱える課題は多く、解決に向けて引き続きリスク分析・評価等のトータルマネジメントを継続する。